

平成28年度大分県の学力定着状況調査ならびに

平成28年度全国学力学習状況調査の結果と分析について

平成28年10月3日

由布市教育委員会

本年度、4月14日に実施された「平成28年度大分県の学力定着状況調査」ならびに、4月19日に実施された「平成28年度全国学力学習状況調査」の結果についてお知らせいたします。

1 学力調査結果の分析

(1) 小学校における学力の状況

「平成28年度大分県の学力定着状況調査」〈図1参照〉

小学校では、第5学年で、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○5年生では、理科活用を除く全ての教科で「目標値^{※注1}」を超えました。

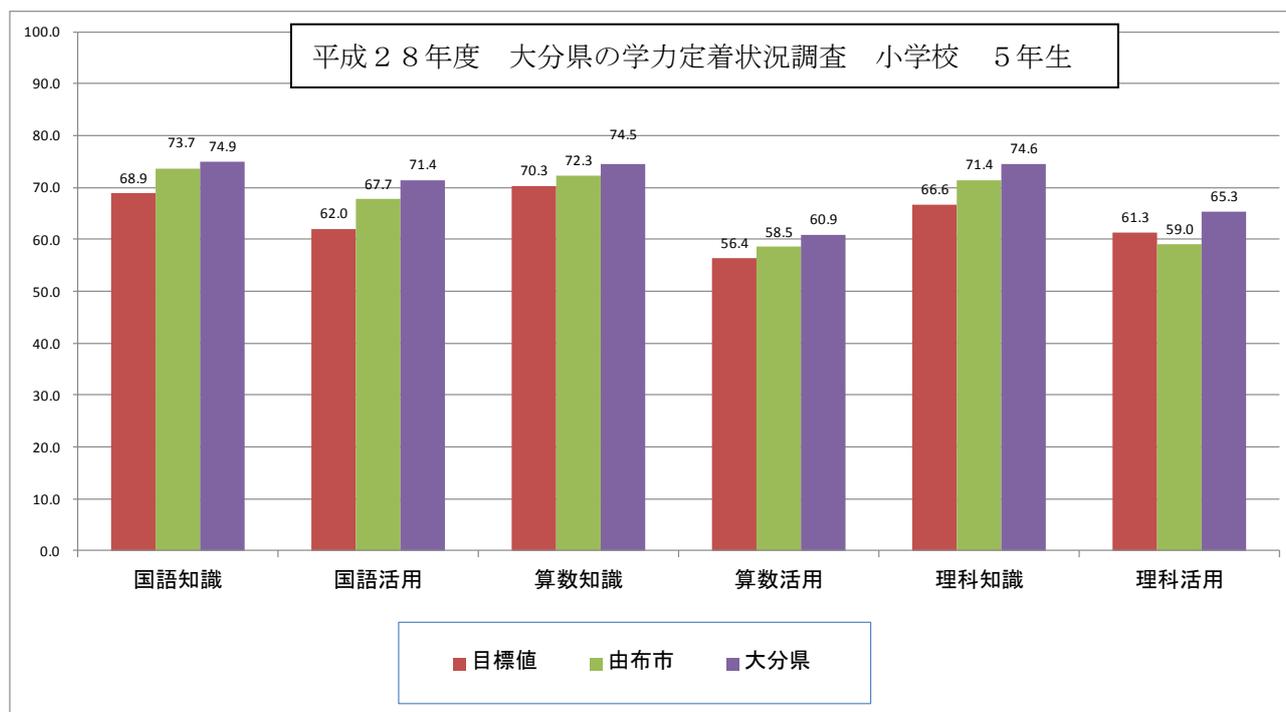
○県の平均値にはもう少しというところなので、引き続き取組を充実させることが必要になります。

○状況的には、ほぼ昨年度と同様の状況です。

※注1 学習指導要領に示された内容について、正答できることを期待した児童生徒の割合。

多くのデータを基に、テスト作成業者が算出したもの。

〈図1〉 教科別正答率「小学校5年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



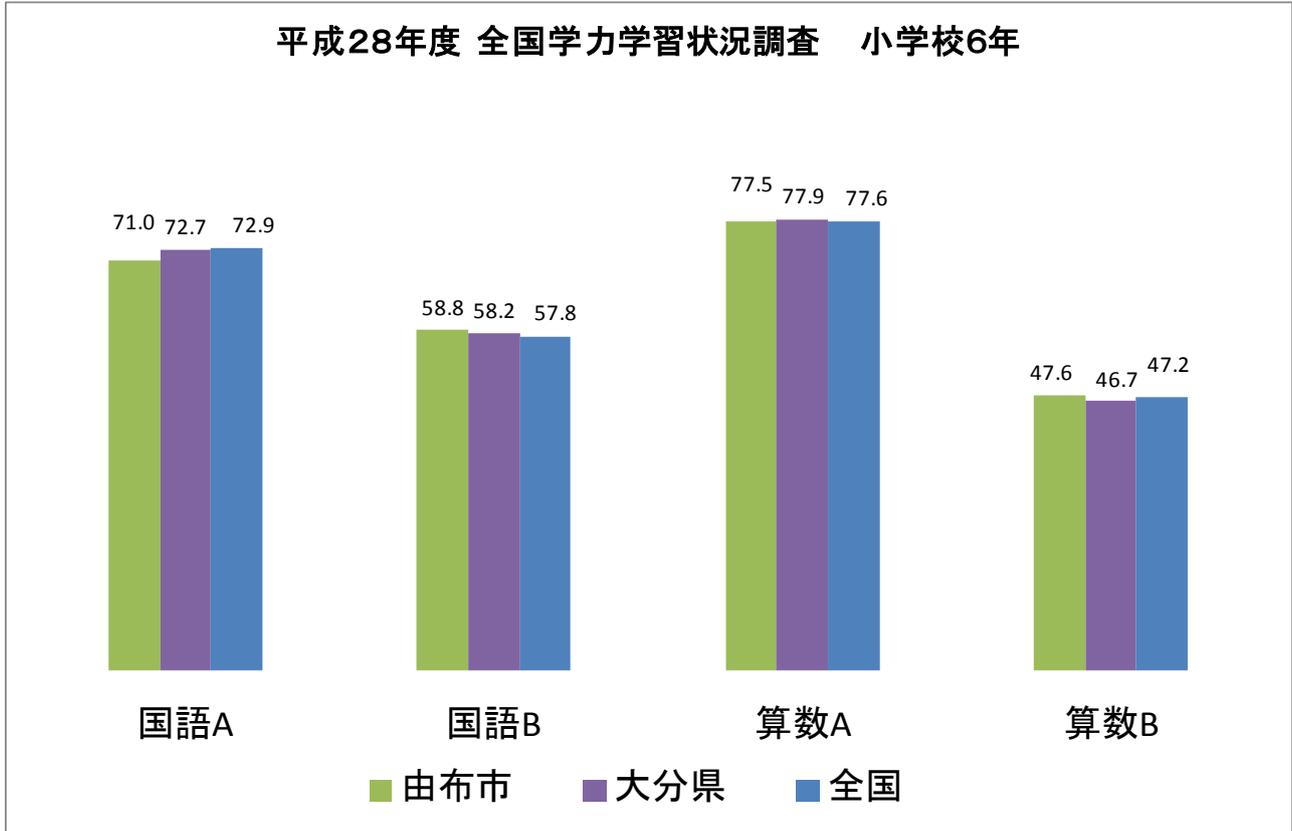
「平成28年度全国学力学習状況調査」＜図2参照＞

小学校では、第6学年で、国語・算数の調査が実施されました。

○6年生では、国語B・算数Bの活用の部分で県や国の正答率を超えました。

○昨年度の県調査からの推移を見ると、改善の成果が見られました。

＜図2＞ 教科別正答率「小学校6年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「小学校における学力向上計画」

① 小学校低学年から引き続く学力向上

由布市においては、小学校の長年の課題として、小学校1年生から将来を見据えて、子どもに学習の技能をつけていくことを目指してやっています。

その結果、授業における話し合い活動（協働的な学習）がうまくなされるようになり子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。

一方で、学力調査の最後の方の問題が解けていないという結果から、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）や、算数における計算力（スピード）をつけることが求められています。このことは、学力調査の当該学年だけでできることではないので、組織的・計画的な取組が必要です。

② 学力調査の結果分析をもとに授業改善を

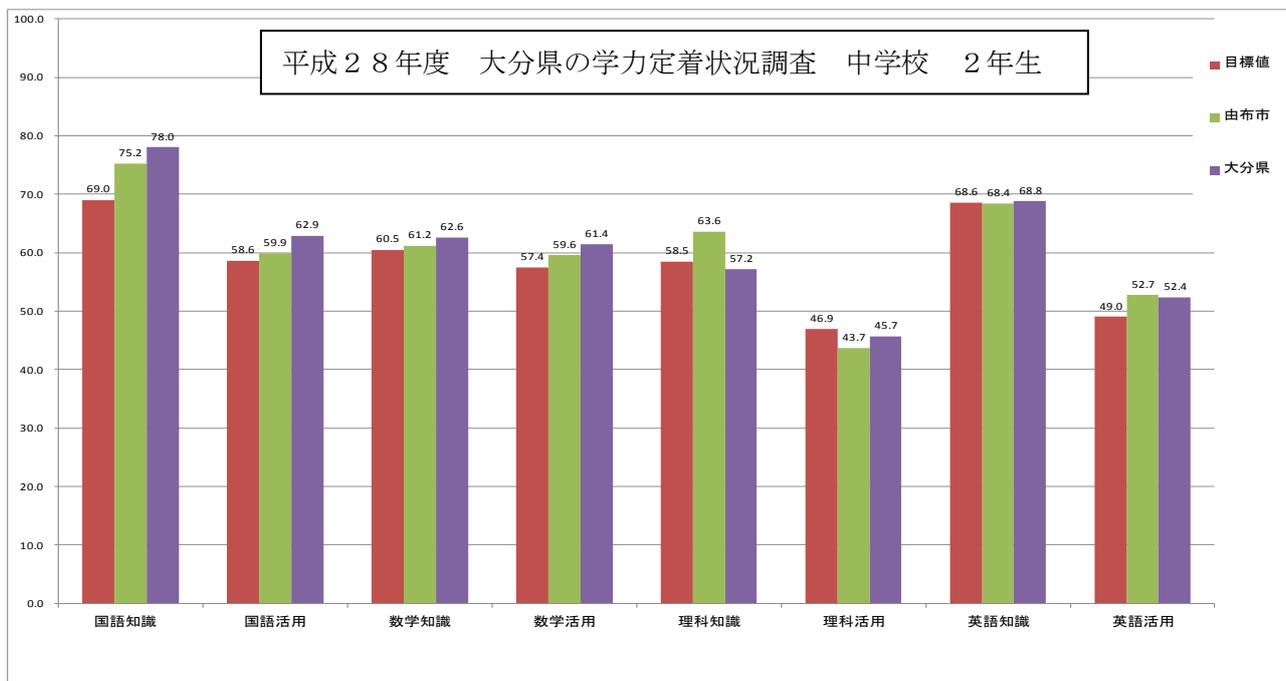
問題を詳しく見ると、県における分析と同様、由布市においても前年度と同じような問題が解けていないという結果が出ています。国語における登場人物の気持ちを読み取る部分や、算数におけるひし形の面積や生活経験に基づく量感を身につける部分が身につけていません。

このことは、前述の低学年からつけていく力に加え、学力調査の結果をふまえて授業改善をしていくことの大切さを物語っています。学力向上支援教員や習熟度別授業推進教員、また、指導法工夫改善教員および指導教諭といったが学力向上に特化した教員を核として、組織的に取り組めるようにしていきます。

(2) 中学校における学力の状況

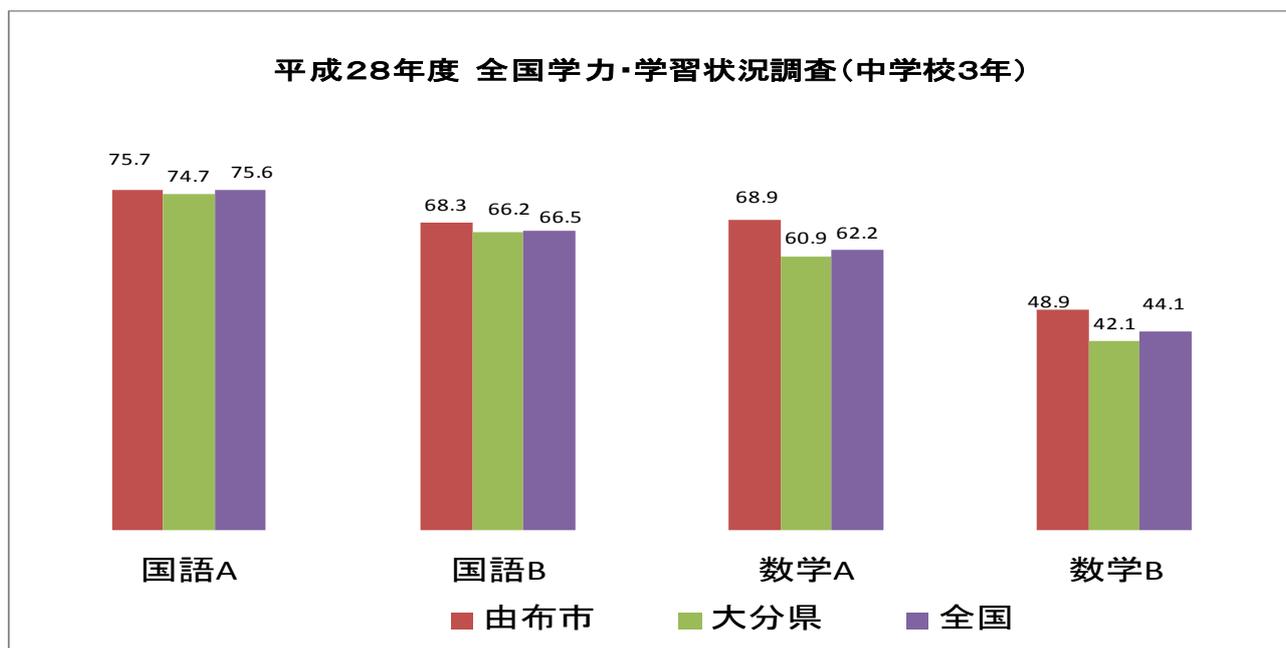
「平成28年度大分県の学力定着状況調査」＜図3参照＞
 中学校では、第2学年で国語・数学・理科・英語の調査が実施されました。
 ○2年生では、理科の活用と英語の知識を除き「目標値^{※注1}」を超えました。
 ○小学校の5年生時と比較すると、かなりの伸びが見られました。

＜図3＞ 教科別正答率「中学校2年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「平成28年度全国学力学習状況調査」＜図4参照＞
 第3学年で、国語・数学・理科の調査が実施されました。
 ○すべての教科において、県や全国の値を上回りました。

＜図4＞ 教科別正答率「中学校3年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「中学校における学力向上計画」

① 小学校から引き続く学力向上

小学校の部分でも記述したとおり、小学校から引き続き中学校へ学習の技能をつけていくということが今一番の課題です。

授業における話し合い活動（協働的な学習）の充実は、中学校の授業でも活用されており、子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。

小学校と同様、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）や、数学における計算力（スピード）をつけることは、現状では改善できていません。このことは、小学校段階で解決すべき問題であり、それによって中学校の改善が見られると考えます。今回、その点が比較的うまくいった中学校3年生が、非常によい結果をあげたことが、物語っています。

② 学力調査の結果分析をもとに授業改善を

このことも、小学校と全く同様のことが言えます。国語における登場人物の気持ちを読み取る部分については、小学校から引き続きできていない部分です。また、数量関係についても小学校から引き続く課題です。

中学校では、学力向上支援教員を増員しています。今後もそういった教員を増やし、組織的に取り組めるようにしていきます。

（3）今後の課題

* 県調査および国調査から考えられる由布市共通の取組

- 国調査数学における正答率の高さ = 子どもへの家庭学習・補充学習の丁寧さ
- 県調査小学校における改善傾向 = 授業公開・教材検討会等の授業改善の成果
- 学年による結果の差の大きさ = 学校全体で統一した取組の必要性

由布市では、1学期に学習規律の確立、2学期に授業改善、3学期に補充学習の取組を重点化して行ってきました。今後もその大きな方針は変えずにやっていくつもりです。また、補充学習の取組（家庭学習を含む）について、学校ごとや校種間で差が見られておりましたので、そこをもう一度見直した取組が実を結んできましたので、そこは継続していきます。

授業改善については、県から示されている生徒指導の3機能を生かした授業づくりをベースに、新大分スタンダードの確立に向け学力向上支援教員や習熟度別授業推進教員、また、指導法工夫改善教員および指導教諭といったが学力向上に特化した教員を核として、組織的に取り組めるようにしていきます。

最近取組が浸透し、由布市全体で継続して取り組めるようになりつつあります。あとは残された課題を解決すべく取り組んでいきます。

2 意識調査結果の分析

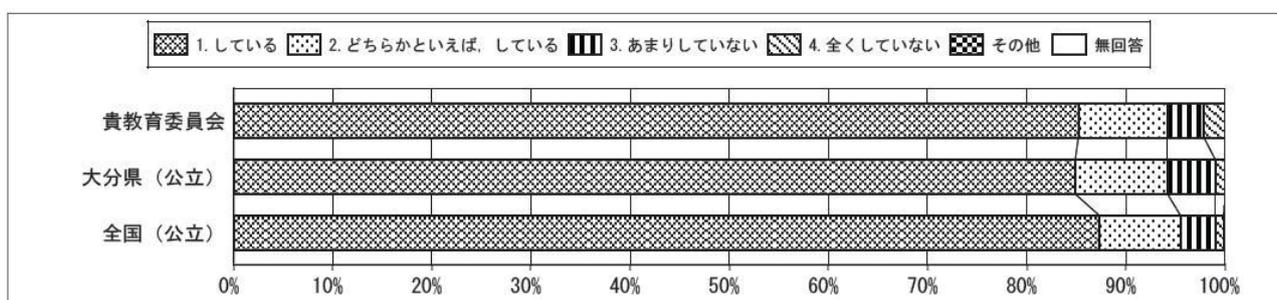
(1) 全国学力学習状況調査の児童・生徒質問紙からわかる状況

全国学力学習状況調査では、児童・生徒に様々な質問をしています。その様子からも学習習慣や生活習慣が推測されます。注目すべき点を紹介することで、保護者や地域の皆様にも知っていただき、よりよい学習習慣や生活習慣の形成に役立てたいと考えています。

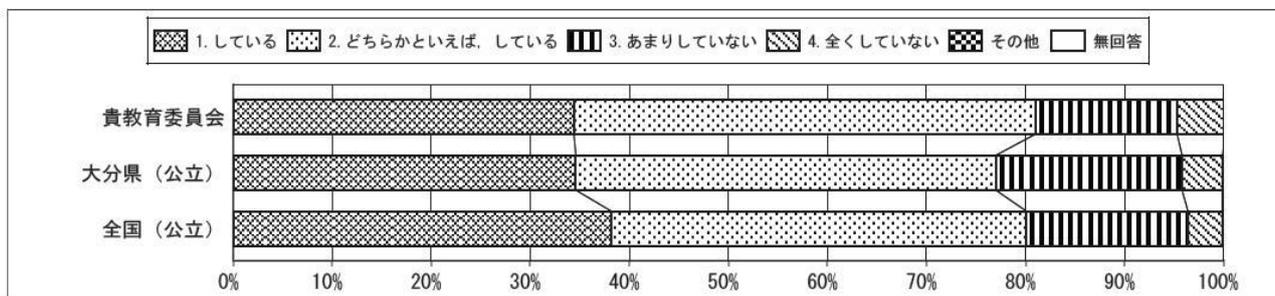
「小学校における学習習慣・生活習慣の状況」 小学校6年

① 基本的な生活習慣について

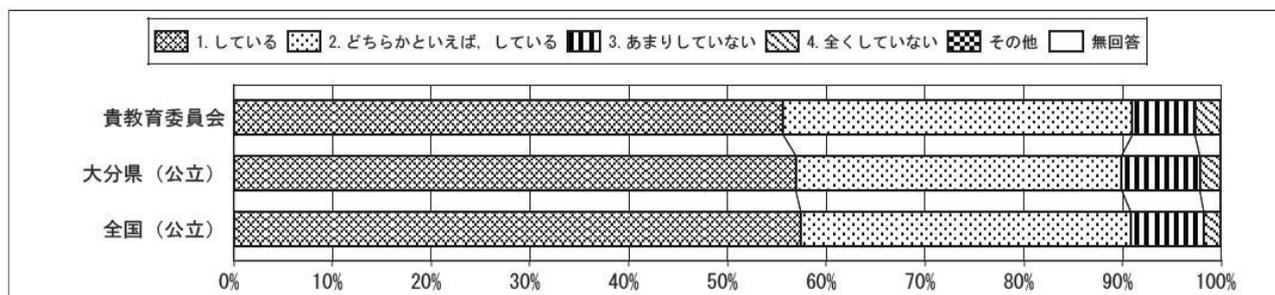
Q1 朝食を毎日食べていますか



Q2 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか

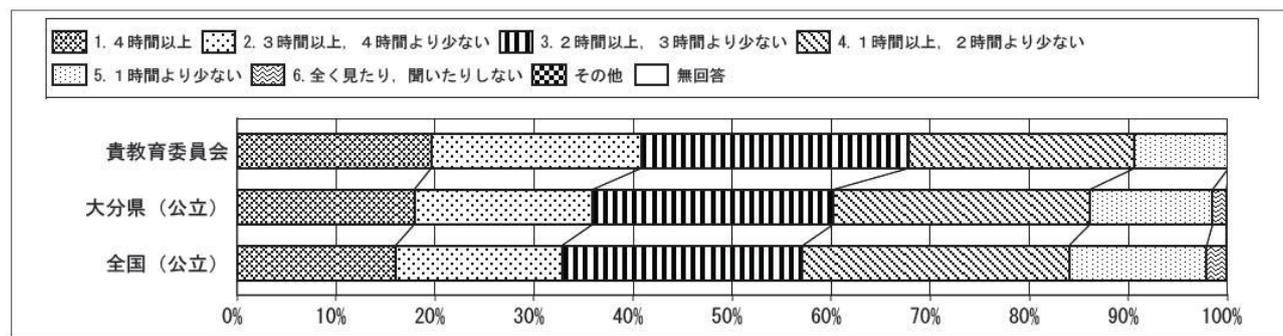


Q3 毎日同じくらいの時刻に起きていますか

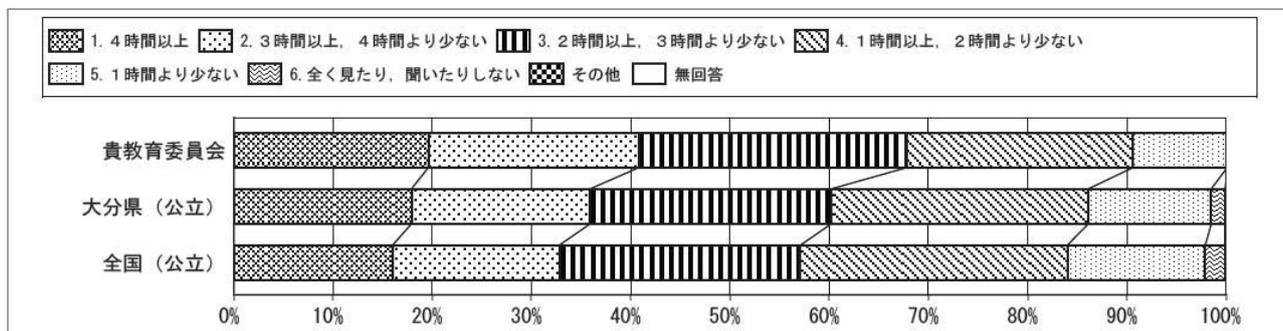


* 基本的な生活習慣は県や全国とあまり差がないようです。
これは、昨年度の結果もほぼ同じでした。

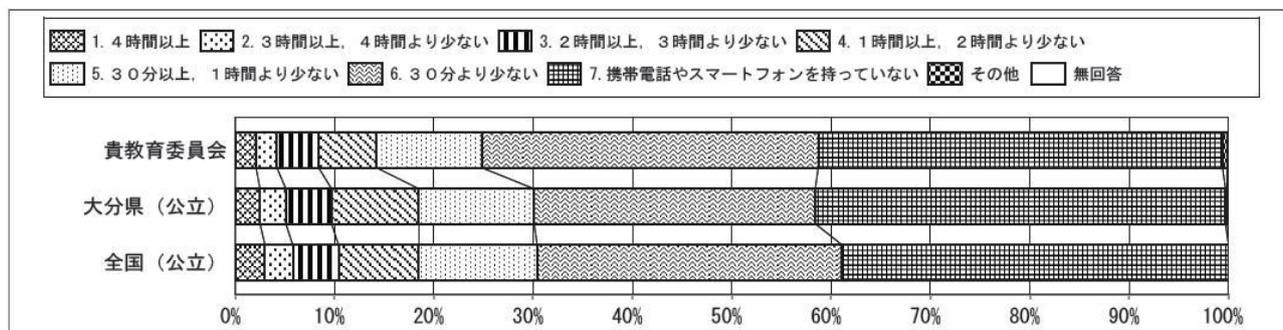
Q4 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、テレビやDVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除く）



Q5 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、テレビゲームをしますか（コンピューター、携帯・スマートフォンを含む）



Q6 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、携帯やスマートフォンで、通話、メール、インターネットをしますか（ゲーム時間を除く）



* これも県や全国とあまり差がないようです。

TVを見る時間については、県や全国よりも多い傾向にあります。

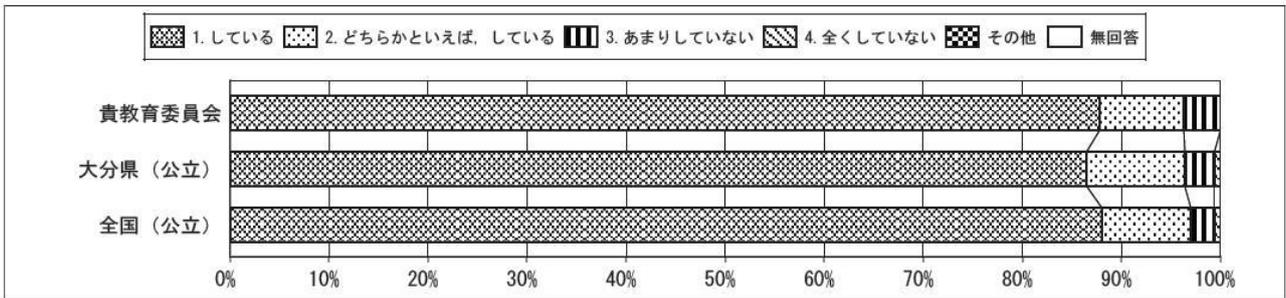
* 気になるのが、ゲームに2時間以上携わっている子どもが70%弱いるということです。全国より10ポイントほど高いです。改善する必要があるようです。

* 携帯やスマートフォンを持っていない子どもは全国並みの40%程でした。

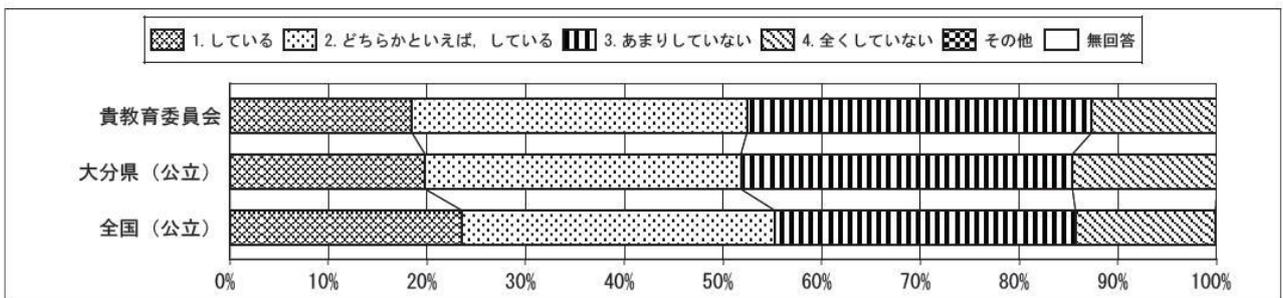
これは昨年度とあまり変わりません。

② 学習習慣について

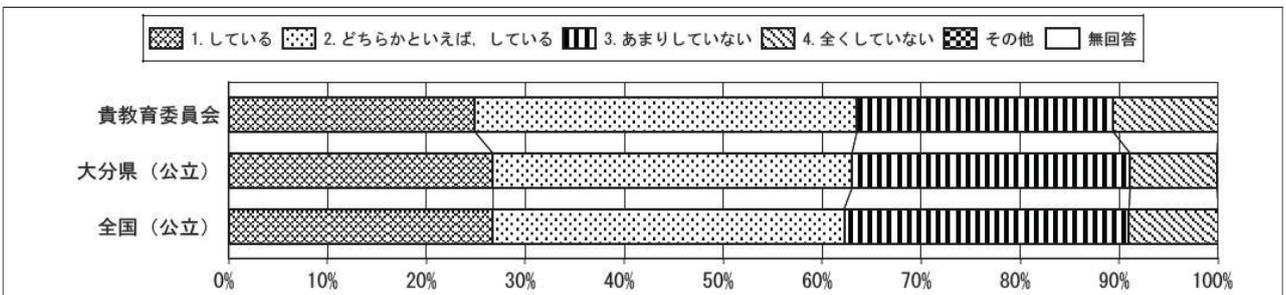
Q 7 家で学校の宿題をしていますか。



Q 8 家で学校の復習をしていますか



Q 9 家で計画を立てて勉強をしていますか



*昨年度調査では、県や全国に比べて家庭学習をやっている割合が高かったのですが、今年度はほぼ同程度の結果になりました。

*授業の復習については県や全国より若干低かったです。

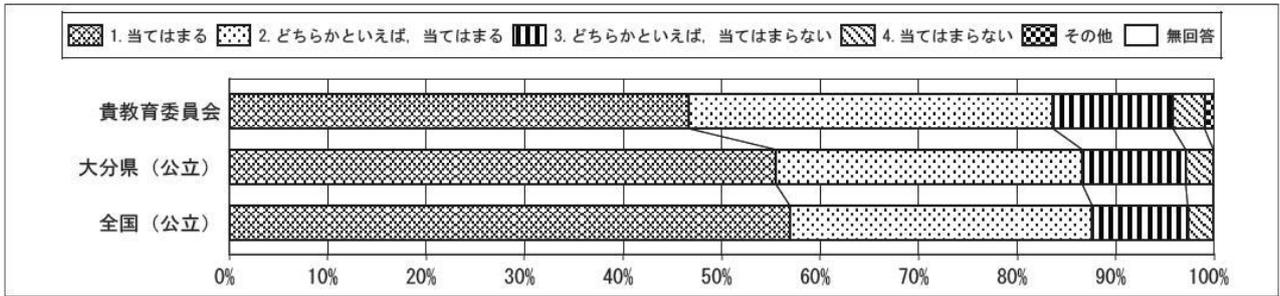
復習を行うことで、学習の定着が図れますので、今後も授業の復習をしていくことに力を入れていきます。

*家での過ごししかた（家庭学習も含め）を子どもが自立してどのように行っていく力をつけていくのかは、学校と家庭が協力して行う必要があります。

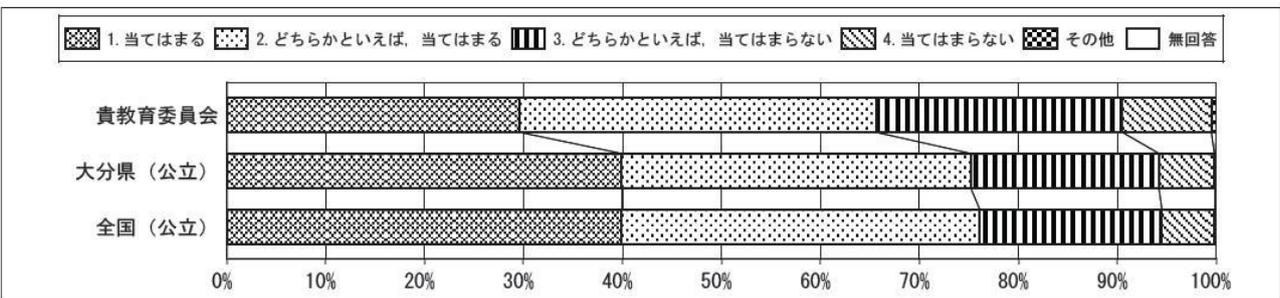
*年度によって、県比や全国比の割合が変わるのが気になります。学年によって、取組の差がでていないためではないかと考えられます。

③ 授業改善について

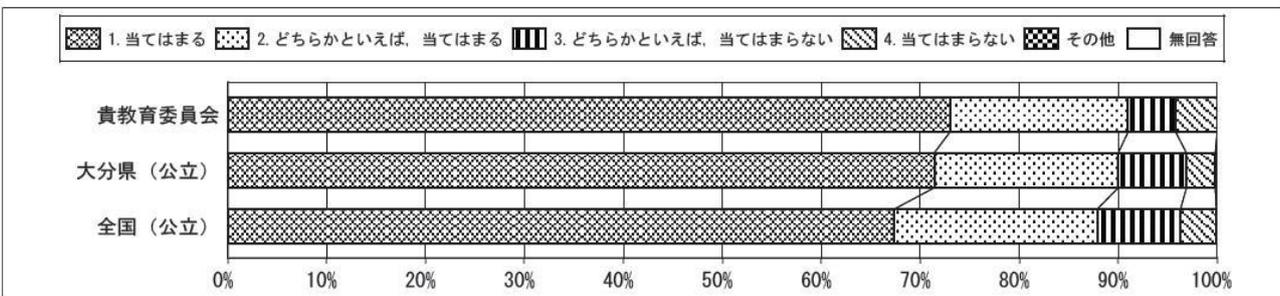
Q 1 0 5年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。



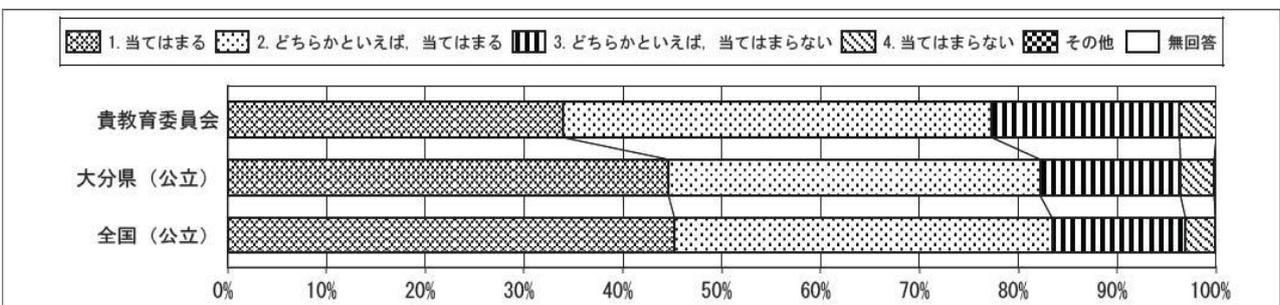
Q 1 1 5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。



Q 1 2 5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか



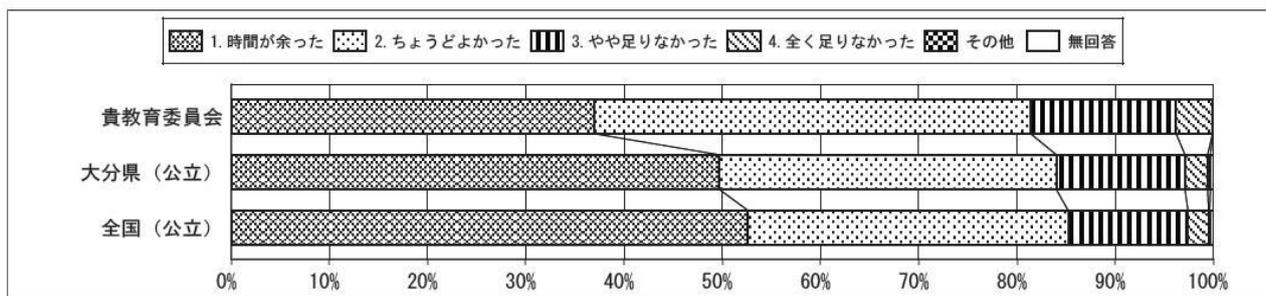
Q 1 3 5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



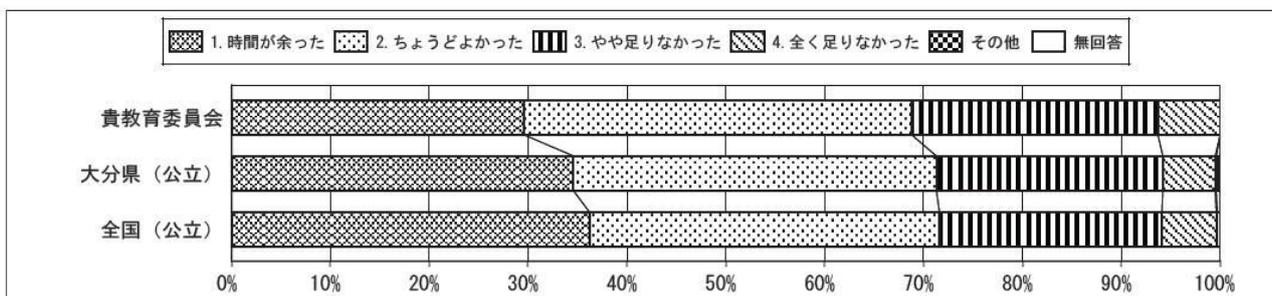
*授業改善に関しては、めあて、振り返りを充実させる取組をおこなってきたにもかかわらず、県や全国に比べ10ポイントほど低い結果となりました。今後の授業改善の重点にしようと思います。

③ 解答時間について

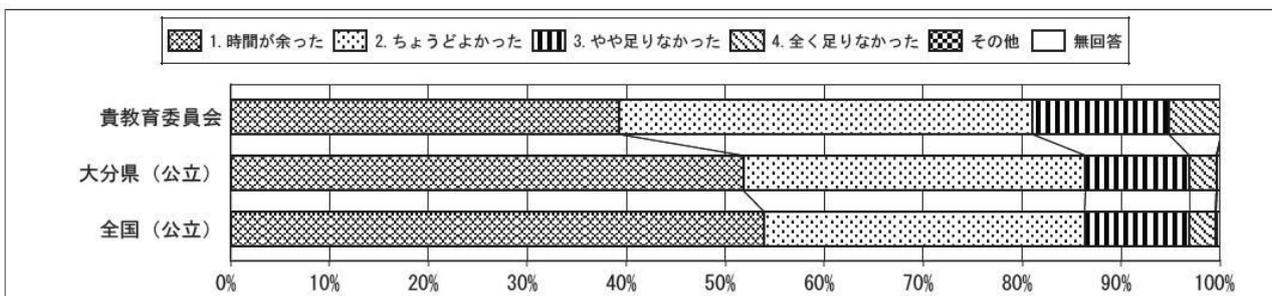
Q 1 4 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）



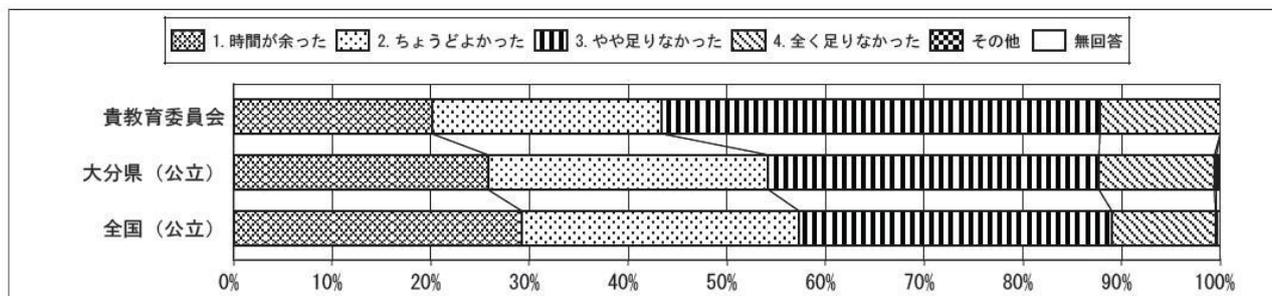
Q 1 5 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）



Q 1 6 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）



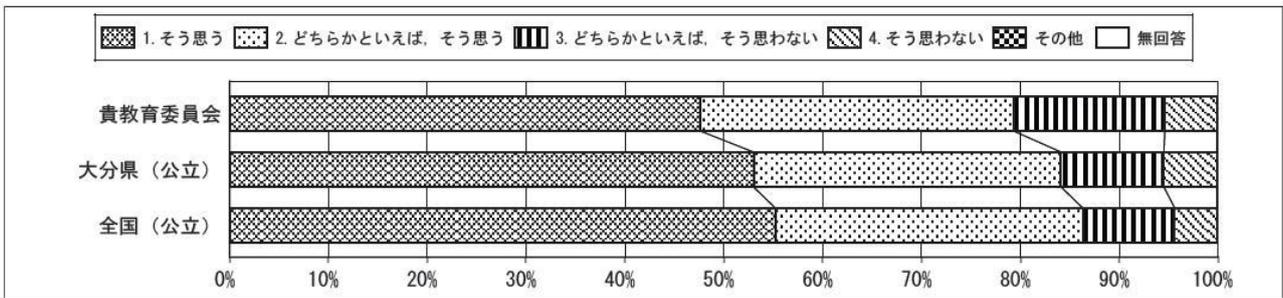
Q 1 7 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）



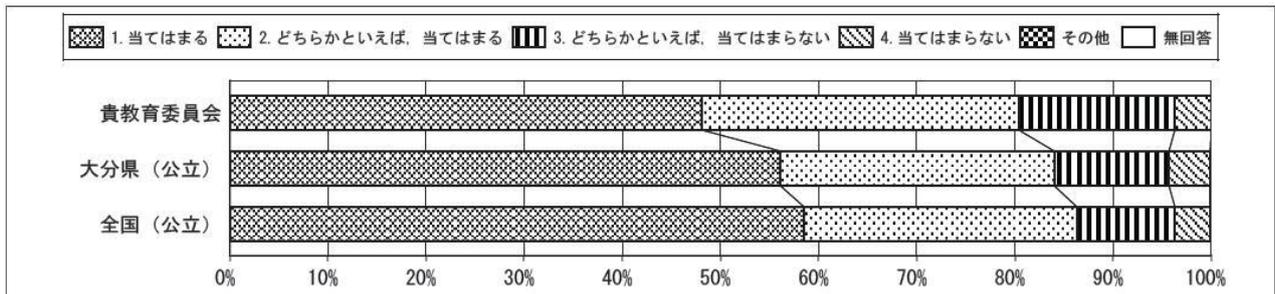
* 調査問題の解答時間については、足りなかった割合が多いことがよく分かりました。低学年から計画的に、読むスピードや計算のスピードをつける必要があります。

④ その他の項目について

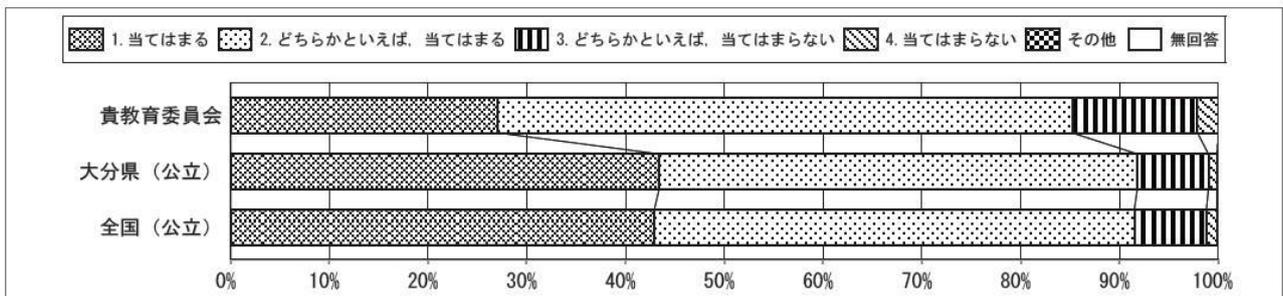
Q18 学校に行くのは楽しいと思いますか。



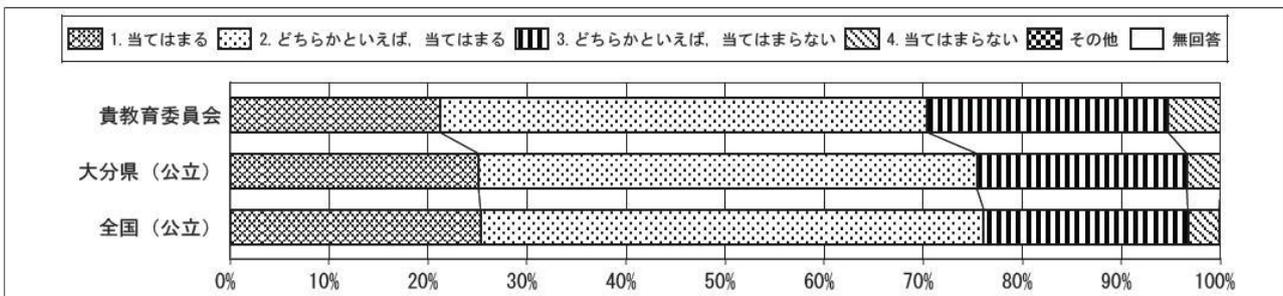
Q19 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。



Q20 学校のきまりを守っていますか



Q21 難しいことでも、失敗をおそれずに挑戦していますか



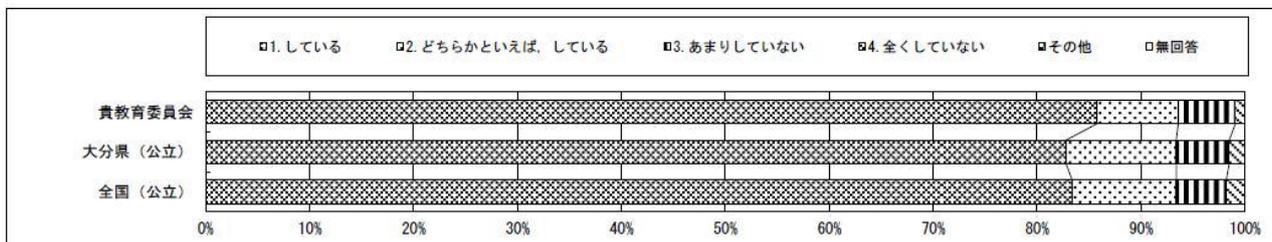
*難しいことに挑戦すること。みんなで何かをやり遂げること。学校を楽しんでいると感じること。このことは全て相関関係があると考えます。これらの項目は、昨年度より若干低くなっていました。

*今後とも、学校生活のみならず、子どもたちを取り巻く環境全ての改善に取り組んでいくことが大切と考えます。

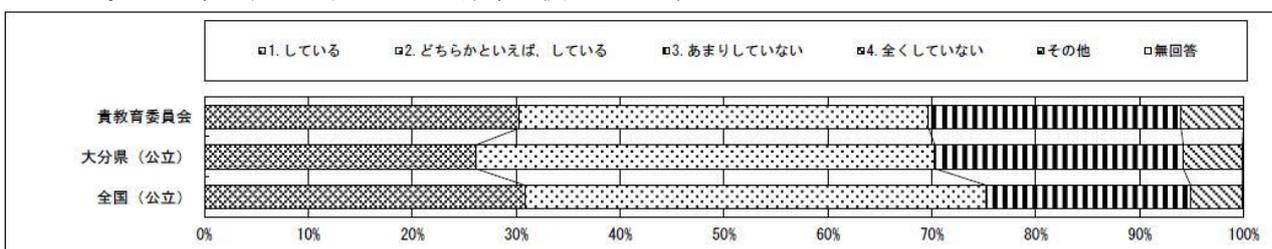
「中学校における学習習慣・生活習慣の状況」 中学校3年

①基本的な生活習慣について

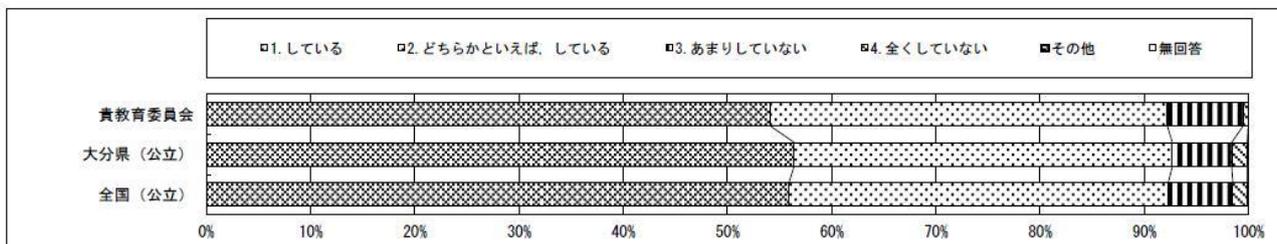
Q 1 朝食を毎日食べていますか



Q 2 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか



Q 3 毎日同じくらいの時刻に起きていますか

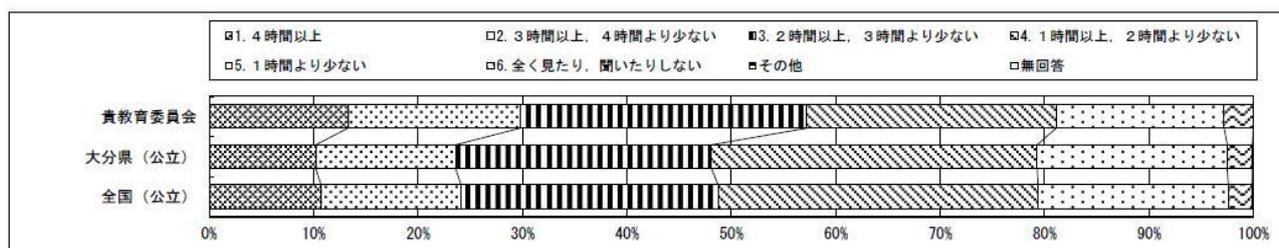


* 基本的な生活習慣は県や全国とあまり差がないようです。

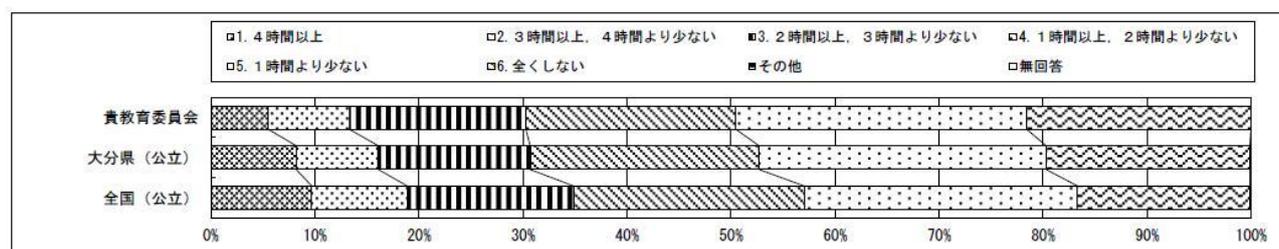
これは、昨年度の結果もほぼ同じでした。

* どちらかというとも、県や全国に比べ基本的な生活習慣はついているようです。

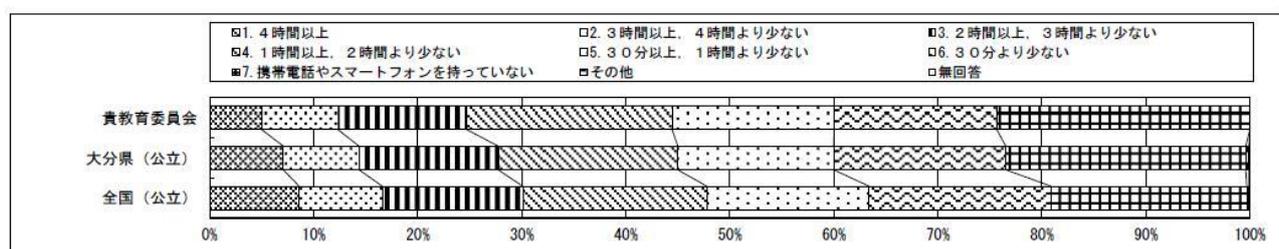
Q4 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、テレビやDVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除く）



Q5 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、テレビゲームをしますか（コンピューター、携帯・スマートフォンを含む）



Q6 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、携帯やスマートフォンで、通話、メール、インターネットをしますか（ゲーム時間を除く）



* これも県や全国とあまり差がないようです。

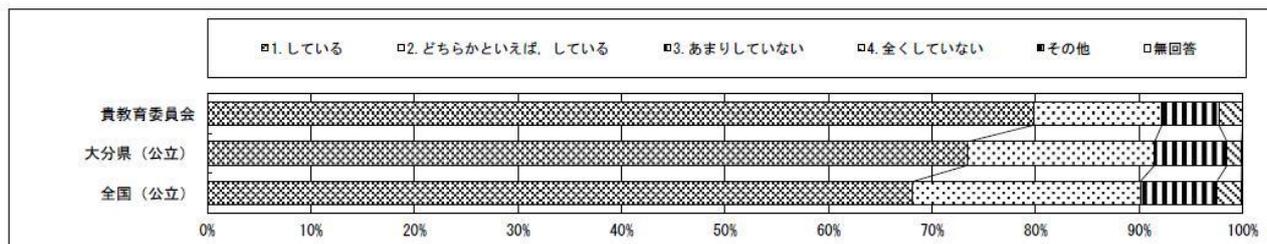
TVを見る時間についての割合が低い反面、テレビゲームをする割合が若干多いのが特徴です。

* 気になるのが、ゲームや携帯等に、2時間以上携わっている子どもが結構いるということです。（30%ぐらい）全国的な傾向とはいえ、改善する必要があるようです。

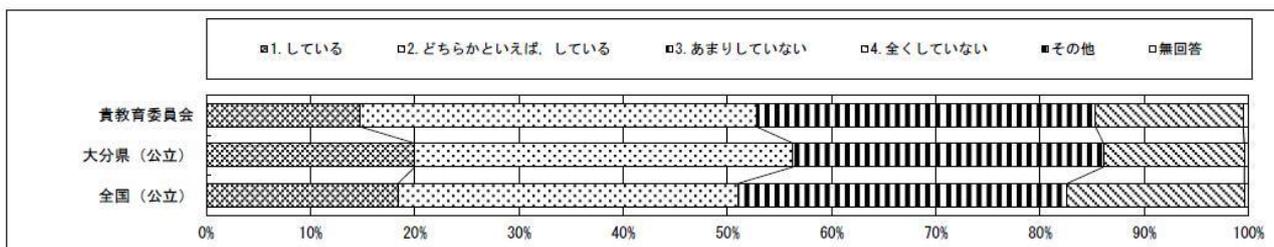
* また、4時間以上関わっている子が、昨年度10%（1割）いましたが、5%に減少しました。

② 学習習慣について

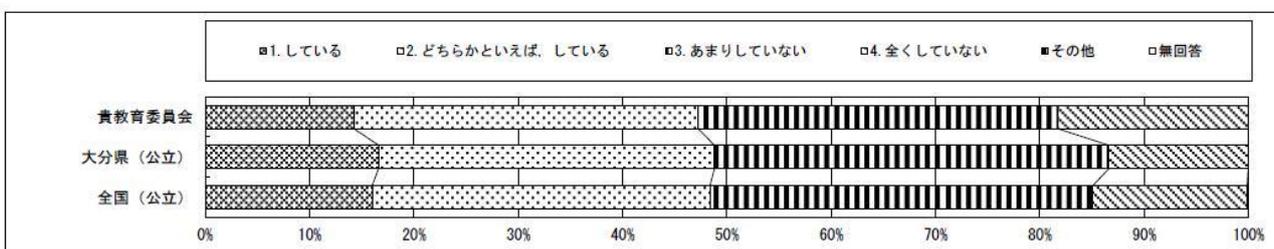
Q 7 家で学校の宿題をしていますか。



Q 8 家で学校の復習をしていますか



Q 9 家で計画を立てて勉強をしていますか



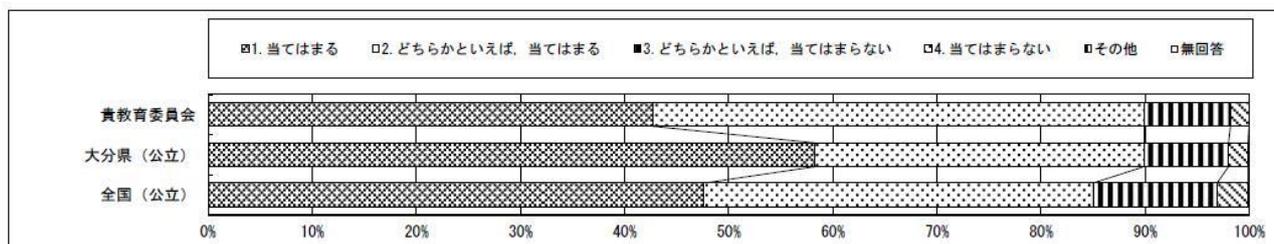
*昨年度調査でも、県や全国に比べて家庭学習をやっている割合が高かったのですが、今年度はさらに高い結果になりました。

*授業の復習については県や全国とあまり変わらない結果になりました。
このことは、昨年度までの課題が少しずつ改善されたといえます。復習を行うことで、学習の定着が図れますので、今後も授業の復習をしていくことに力を入れていきます。

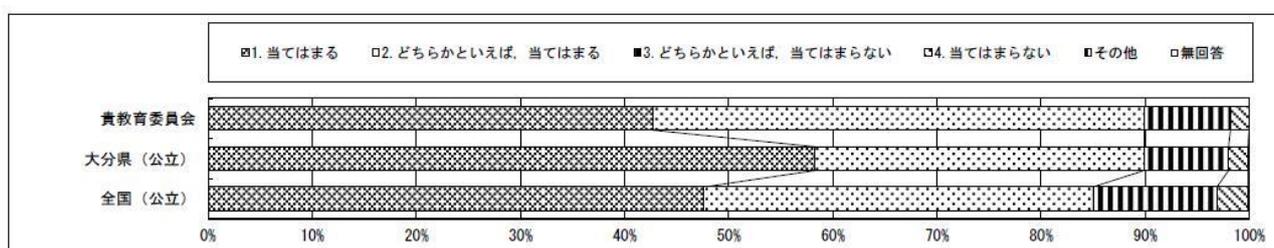
*家での過ごししかた（家庭学習も含め）を子どもが自立してどのように行っていく力をつけていくのかは、学校と家庭が協力して行う必要があります。

③ 授業改善について

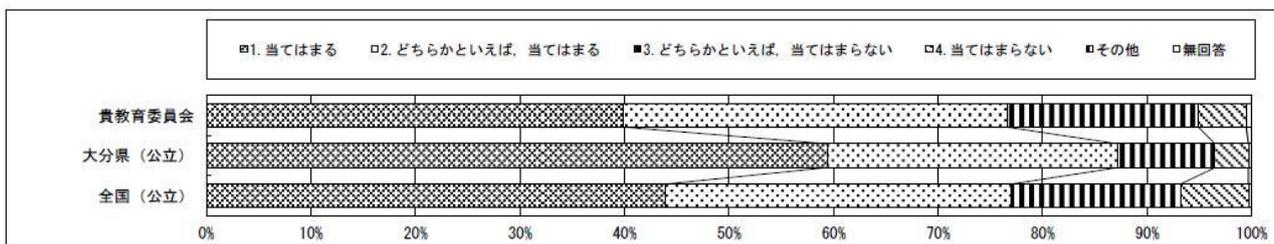
Q10 2年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。



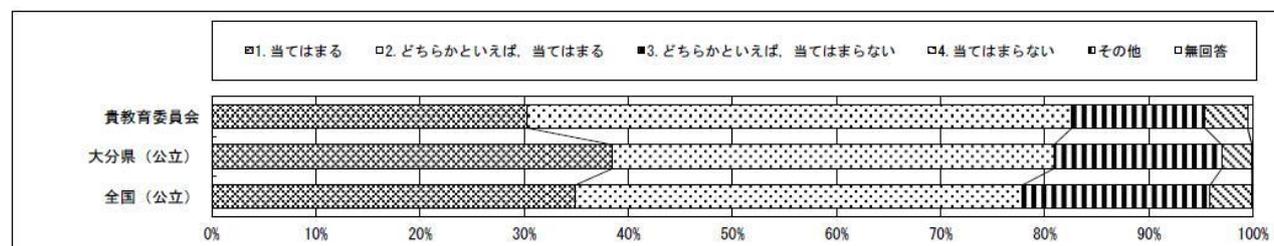
Q11 2年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。



Q12 2年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか。



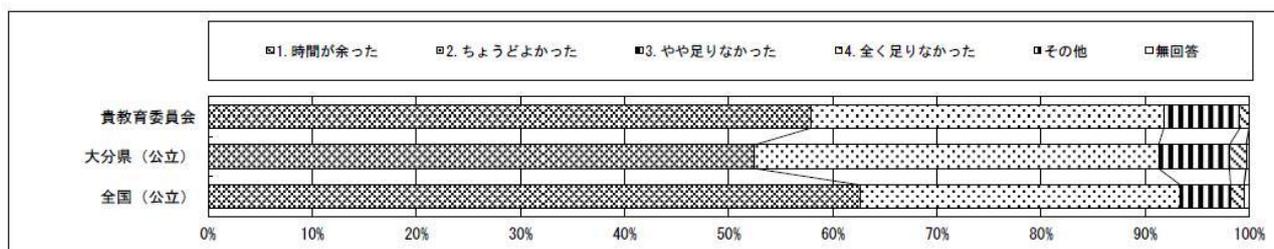
Q13 2年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



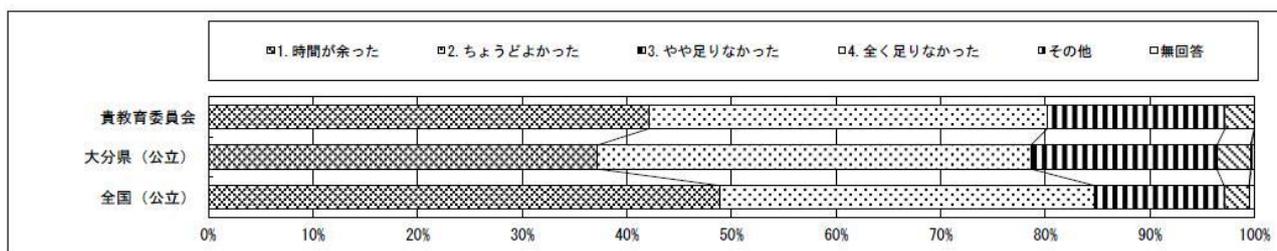
*このことは、大分県の結果に比べ、10ポイント近く低くなっています。授業改善の重点として力を入れていきます。

③ 解答時間について

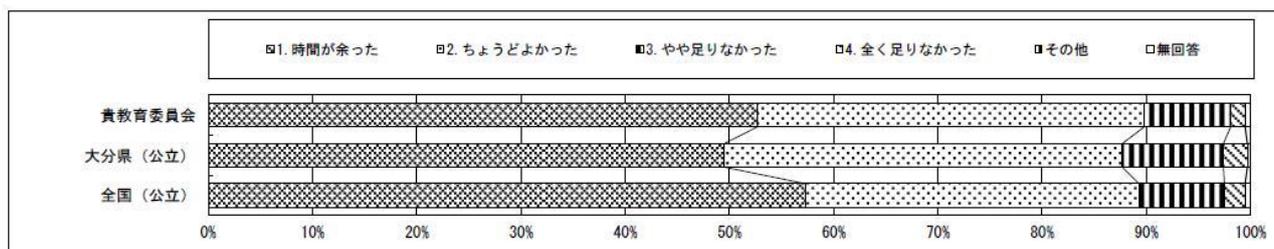
Q 1 4 調査問題の解答時間は十分でしたか (国語A)



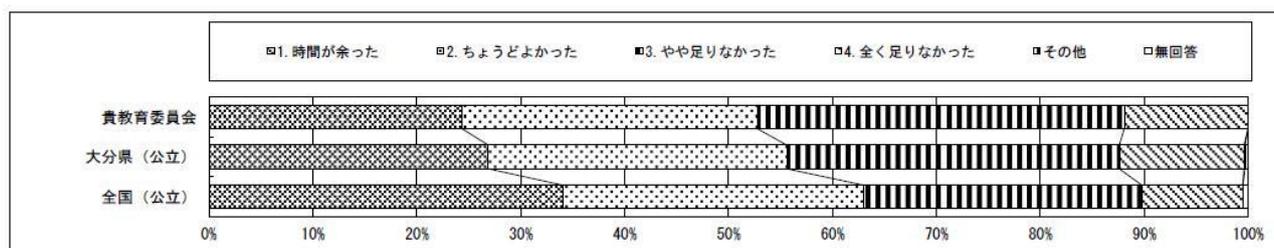
Q 1 5 調査問題の解答時間は十分でしたか (国語B)



Q 1 6 調査問題の解答時間は十分でしたか (数学A)



Q 1 7 調査問題の解答時間は十分でしたか (数学B)

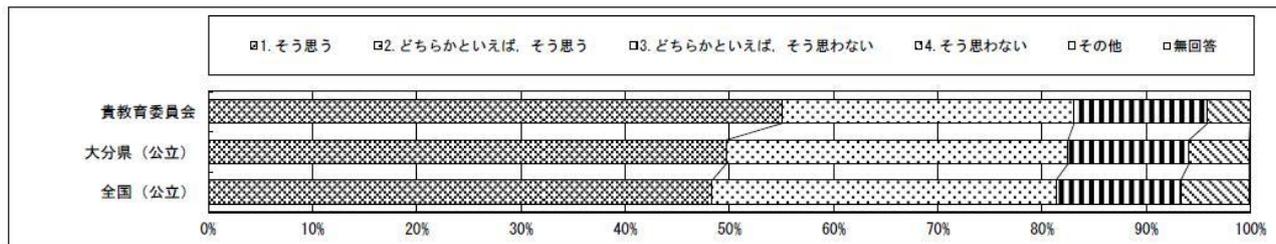


* 解答時間は県よりも余裕を持ててきたようになってはいますが、国の結果よりは低くなっています。

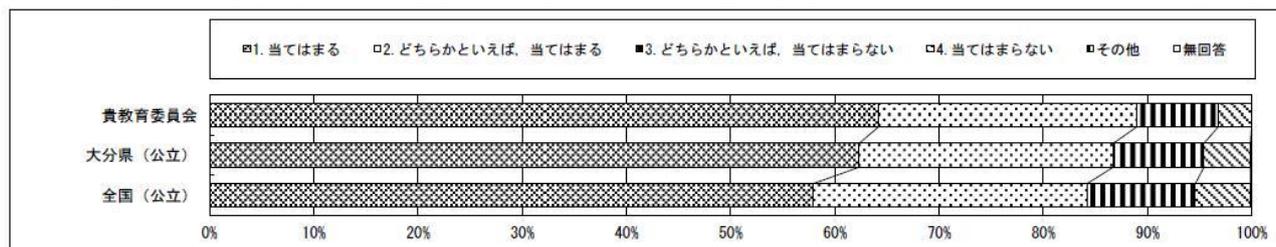
* 小学校も同様の結果が出ていますので、小学校から継続した取組が必要です。

④ その他の項目について

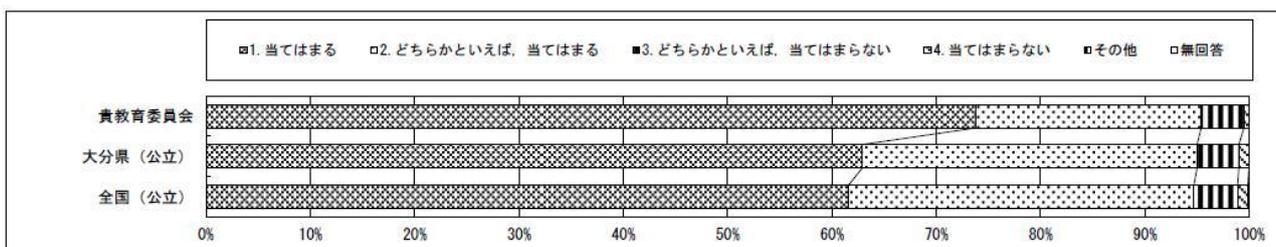
Q18 学校に行くのは楽しいと思いますか。



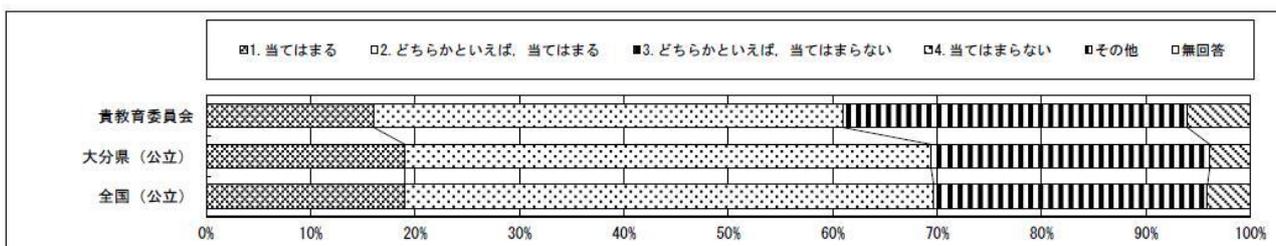
Q19 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。



Q20 学校の規則を守っていますか



Q21 難しいことでも、失敗をおそれずに挑戦していますか



*この部分は、すごくいい傾向が見られました。学校生活が充実していると考えられます。その要因として、特別活動の充実があげられます。

*学校生活が学習だけでなく、生活面でも充実することが必要ですので、今後も由布市の取組の一つに加えていきます。

3 今後の「学力向上」に向けて

(1) 由布市の取組の重点に加え、家庭との連携を図ること。

学校を中心とした取組は、何年間かはあまり変えるつもりはありません。それというのも、市の立てた方針がまだ十分に位置付いているとは言えないからです。ただ、少しずつ成果はみられてきました。今後も学期ごとの重点化を図りながら、取組の充実に向けて精一杯努力を続けます。

しかしながら、昨年同様家庭との連携も一層密にしなければならない状況が出てきました。一つは、TV等の視聴時間、ゲームの時間、インターネットやメール（ライン）の時間です。これについては、一部の子どもたちが、かなりの時間を費やしており、学習への意欲はもとより、生活の乱れにつながっている実態があります。

。

(2) PDCAサイクルを充実させること。

分析した結果を、改善に生かさなければ意味はありません。今年度も学校ごとに調査結果を分析していますが、その後の取組にどう生かしていくのか、市・学校が一体となってその検証を行っていかうと思います。幸い、調査結果ではよい兆しが見えてきています。今後ますます、授業が充実するよう取組をすすめてまいります。

気になるのは、年度によって傾向が大きく変わっていることです。これは、学校が組織的、継続的にいろんな取組を行っているのではなく、学年によって取組が異なっている可能性を示しています。今後検討していきたい点です。

(3) 学校生活を充実させること。

中学校では改善、小学校では逆の結果が出ていました。学校生活、学習面のみならず生活面も充実させる必要があります。

今後、特別活動や道徳を充実させていくことで、知・徳・体バランスのとれた子ども作りにより一層取り組みます。